

令和8年4月2日

## 令和8年度 確かな学力育成への基本方針

県立村上中等教育学校長

「確かな学力」の育成に向け、以下の取組を組織的・継続的に実施します。

### 1 基本的な方針

- ・誰一人取り残すことなく、すべての生徒の学力伸長をめざします。
- ・学力育成への取組が「心身の健全育成」を損なわないよう留意します。

### 2 育成する生徒像

「自立した学習者」の育成

見通しをもって学び、学習過程や成果を振り返りながら、よりよく学ぶために学び方を調整(学びの自己調整)できる生徒の育成を目指します。

### 3 大切に考える考え方

(1)「学習の振り返り」の重視

- ・生徒が自らの学習状況を振り返り、学びを自己調整する機会を日常的に設けます。

(2)「教員のアドバイザー機能」の強化

- ・教員が学習内容の選択や学習方法等について個別に助言する機会を増やします。

(3)「個別最適な学び」の推進

- ・どの生徒も自分の実力に応じた学習に取り組めるよう工夫します。

### 4 具体的方策

(1)振り返りタイムの実施 「学習状況が見える化」

1年生～4年生は終学活内の10分間「振り返りタイム」を実施しています。自らの学びを振り返り、よりよい学びへ向けて自己調整を行っています。

- ・宅習記録…家庭学習への取組を客観視させるとともに、学びの自己調整を促します。
- ・授業の振り返り…自らの授業態度を客観視させ、学びの自己調整を促します。学んだことを自分なりに言語化することで理解を深めます。
- ・自宅学習計画の検討…その日の家庭学習内容を自己決定することにより学習への責任と意欲を引き出します。
- ・学習に関する教科担当者への質問…教員の助言により、学びの自己調整を促進します。

(2)教科担当者面談

- ・主に「振り返りタイム」の時間内に、教科担当者が指名して学習面談を行います。
- ・当該教科の学習状況の確認し、改善の方向性を助言します。

※「進路実現への道筋・卒業(進級)への道筋」を具体的に示し学習への不安を軽減します。

(3)家庭学習管理

- ・得意・不得意の差を広くカバーできる宿題内容を検討します。
- ・オンライン学習ツール(スタディサプリ、クラッシー)も積極的に活用します。